

海浜の自然環境を守る会ニュース

第68号 2021年9月15日

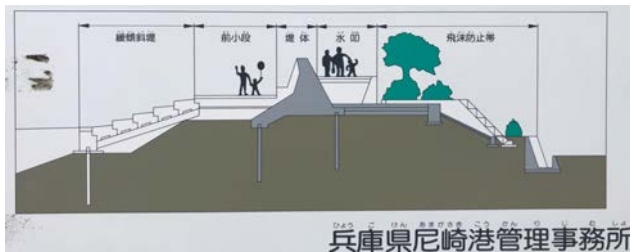
663-8143 西宮市枝川町19-10 甲子園浜自然環境センター内 甲子園地区埋立事業対策協議会気付

<http://www.npo-koshienhama.com/>

クロマツは35本 - 遊歩道の樹木を調べてみました

甲子園浜ふるさと海岸整備事業

浜甲子園3丁目から東へほぼ1km、海側と陸側に遊歩道があり、陸側は民家との間に樹木帯が設けられています。正式には飛沫防止帯といいます。



甲子園浜ふるさと海岸整備モデル事業は、海岸の背後地域の特性や海岸性状等に配慮し、海岸背後のまちづくりと一体になった良質で多面的な機能を持った海岸保全施設の整備を行うことにより、地域住民に親しまれ、海辺とふれあえる美しい景観を持った、安全で潤いのある海岸空間の創出を目的として、平成6年(1994)完成しました。

砂浜へ下りるウロコ階段は緩傾斜堤(かんけいしゃてい)、海側遊歩道は前小段(まえこだん)、陸側遊歩道は水叩(みずたたき)というのが正式名称のようです。建設にあたって、海から隣接民家への波の被害を抑える意識のうかがえる構造です。

飛沫防止帯にどのような樹木をどれだけ植栽したかの記録を見つけることはできませんでしたが、完成当時は現在よりもまばらな状態であったことは想像できます。年月を経た現在は遊歩道からの目隠しにもなり、民家側から見ても緑の濃い、目にやさしい樹木帯になっています。



1位シャリンバイ、2位ヤマモモ

枝を広げ混み合っ根元が見えない状態の樹木が多く、正確な本数を調査するのは困難ですが、総本数およそ830本。常緑樹22種、落葉樹8種。ほとんどが常緑樹であるのは目的から当然で、鳥達が運んできてあとから根付いたものもあるでしょう。ほかにランタナ、レ

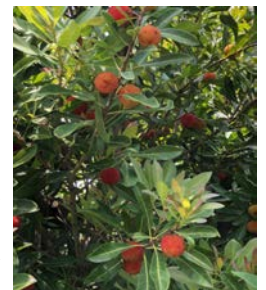
1	シャリンバイ	190
2	ヤマモモ	146
3	トベラ	87
4	ムクゲ	66
5	マテバシイ	64
6	タブノキ	51
7	クロマツ	35
8	アベリア・ヒイラギ	33
10	ヤブツバキ	27
11	クスノキ	18
12	トウネズミモチ	13
13	モッコク	11

ンギョウ、エノキ

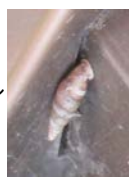
ナンテンなども。

ヤマモモは、実のなる雌株が63本で、雄:雌がおおよそ4:3なのは意図して植えられたのか。

実が熟す6月には鳥もヒトも採りどきをねらっています。ヤマモモの実



多様な樹々が季節に応じて開花し実を結び、虫や鳥がやってくる樹木帯。海からの風、砂、波を軽減し、あらゆる生き物を受け入れる姿は、私たちに大きな安心と希望を与えています。

陸の貝
ナミギセル

カニ模様の柵から葉を出しているシャリンバイ



♥ いいもの見つけ ♥ コブヨコバサミ

8月21日、新砂浜から再生干潟に入って歩いていると、「今はイボニシだった、かな？」と5歩後ずさりし貝殻を視認する。巻き貝のてっぺん辺りがきれい。イボニシとは違う。こんな巻き貝を見たことがない。すると、巻き貝が動く。何と、私が数年前から興味を持っていたコブヨコバサミだ。

コブヨコバサミは大人の握りこぶしぐらいのアカニシを宿にする大型のヤドカリ。ハサミは赤黒くトゲトゲの突起があり、そこに太い毛が生えていていかつい。

飼育箱にアカニシやツメタガイの貝殻を入れてみると、直ぐに興味を示し引っ越しを試みてくれた。引っ越しの段取りは、1)巻貝の殻の入り口をハサミや頭部を使って念入りに大きさを測る。2)引っ越しが決まると、入り口辺りを歩脚でしっかり掴む。3)腕立てをするように歩脚の関節をのばす。4)腹節の先端の尾節を外し頭部に近づけ、腹部を反ひねりして新しい宿に入る。この動作の早いこと。素早くしないと危険だからと想像する。

飼育箱に砂を入れて海水を深さ1cm位入れた。これだと循環ポンプを使用しなくても酸素が供給され飼育が容易だ。2日おきに浜で汲んできた海水で砂を洗い掃除する。餌は、ワカメ・かつお節・チリメンジャコ・エビ・ご飯粒・ブラインシュリンプなど食べるから飼育しやすいが、この子はやはり海に生きるのが幸せだろう。

向山裕子



活動報告

- 7月10日 甲子園浜遺跡探検 12名
- 7月18日 ブルーサンタになって清掃 100名
西宮海上保安署、ウインドサーファー合同
可燃ゴミ 160kg、不燃ゴミ 10kg (ヤマサ環境エンジニアリング調べ)
- 9月12日(日) 海浜清掃



ここはどこ？

昭和の1枚の写真



昭和62年
浜甲子園1丁目
堤防へ上がる坂道。
堤防のてっぺんに
テトラポットが
見えています。

現在の浜甲子園1丁目
堤防へ上がるゲート →

